MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２２．１２．１３　発行元
第 426 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

かつての名作・傑作　その2

４１６号では、上の題名に「〇作」と付けていたが、今回は削った。「駄作や凡作」もありうるかと思って加えていたのだが、「名作・傑作」で十分に間に合うなと思い直した。今回も３作を取り上げて紹介する。

私の本棚にある本の紹介

私の本棚にある１９７０年代～８０年代頃の日本ミステリの名作・傑作を紹介する企画第二弾。これまであまり取り上げてこなかった作家の作品を選んでみた。

下に取り上げた梶龍雄にしても小林久三にしても、作品数はそれなりに多い。でも、私の読んでいる冊数が少ないのだ。「読もう読もう」とは思っても、若い頃は生活に余裕がない。今は他に読むべきものが増えてしまい、後戻りもなかなか難しい。いつも書いているように、所詮世の中の全てのミステリを読むことなど不可能なのだ。

ということで、偏りがあっても、ミステリの世界の一端を紹介したいというのが私の本音である。

小林久三『暗黒告知』

私の話。大学二年生の時、当時の学長だった林竹二先生のゼミに参加した。その中で東大の助手になったばかりの宇井純先生の講義を聞く機会があった。テーマは田中正造翁の生き方と足尾鉱毒事件。恥ずかしながらその時まで認識していなかった話なので、大きな衝撃を受けた記憶がある。その田中正造が本書の中心人物である。１９７４年講談社。江戸川乱歩賞受賞作。

明治４０年の出来事。田中正造は国会議員の時からこの足尾銅山から出る有毒の水の問題を取り上げ渡良瀬川流域の作物被害を提起している。その後現地に移り住んで地域の人達と一緒に反対運動を展開し続けることになる。行動の人だったのである。栃木県谷中村滅亡の歴史。事件はその流れの中で起きたことで始まる。地元紙の記者が田中正造の側近だった勝野銀之助に会いにいったところ、土蔵造りの仮屋の中から銀之助の断末魔の声を聞く。「正造さんに…」と聞こえた。しばらくして密室を開いてみると銀之助の遺体と正造の杖が見つかった。ただちに正造は容疑者と目されるようになり、苦しい立場に追い込まれる。自分で動きながら潔白を証明しようと…。続いて第二の事件が持ち上がる。歴史ミステリ、社会派ミステリ、本格ミステリの要素を備えた傑作。

九鬼紫郎『大怪盗』

１９８０年カッパノベルス。前（第１１２号）にも少し触れたが、今回はもう少し詳しく。本書で描こうとしたのは「日本版ルパン」の物語。表紙絵もルパンそのもの。時代は明治５年。歴史ミステリでもある。

東京の両国の料亭で開かれた警視庁大警視・川路利良の歓送会での出来事。一個の桐箱が届けられる。中には若い女の生首と封筒が入っていた。江藤新平司法卿に宛てた手紙には、先頃起きた料亭女将・木村お芳変死は「卍」によるものではない。早く犯人を捕まえよと書かれていた。どうやら「偽卍団」なるものが存在するらしい。当時、役人や御用商人、高利貸等を襲い、世間を恐怖に陥れると同時に喝采も浴びていた「怪盗卍」。原田大警部と探偵の伊賀七は外務省の役人・鳥羽鶏介からの手掛かりを得て…。警察と卍との知恵比べ。

明治政府が出来たばかりで、警察組織もスタート直後のまだまだ不安定な時期。警部は金ボタンの洋装だが、その部下は木綿の単衣を裾ばしょりにした岡っ引きそのまま。新橋・横濱間で鉄道が走り始める年であり、それらの時代背景をうまく物語に生かしているところが良い。楽しく読める。

梶龍雄『龍神池の小さな死体』

１９７９年講談社。長らく絶版本になっていて古書価格は一万円以上の値がついていた。私の手元にあるのも単行本の初刷で、緑色の帯もきれいにしっかり付いているからネット上の画像に出ているものよりもずっと美品だ。最近徳間文庫から「驚愕ミステリ大発掘コレクション」の一冊として再刊されたので、手に入りやすくなったものと思う。元版の帯にも「本格推理の犯人当てで読者に挑戦」と書いてある通り、アリバイ崩しの傑作と言えるだろう。

話の中心は大学の建築工学科の教員になった仲城智一。最近亡くなった母親が残した言葉。「智一、おまえの弟は殺されたりだよ。秀二は殺されたのだよ…」。当時小学三年生だった弟は戦争中の疎開で千葉に行き、龍神池で溺死したと聞いていた。智一は、母の残した言葉の真実を確かめに千葉を訪れ、当時のことを知っている人達に話を聞き始める。地元に残る伝承もあったりして…。ところが調査をきっかけに連続殺人が持ち上がり…事件は新たな様相を見せ始める。容疑者は５人。黒岩教授、友倉助手、相原君、灰谷教授、横川君…。ポイントは事件が起きた時のアリバイに絞られていく。伏線から犯人を推定することができるのか。